

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

spring 2009
Apr.—Jun.

68

僕たちの
好きだった
革命

劇作家・
鴻上尚史が
伝えたいこと

特集 「僕たちの好きだった革命」

鴻上尚史インタビュー



特集

03 劇作家・
鴻上尚史が
伝えたいこと

「僕たちの好きだった革命」
鴻上尚史インタビュー

ピックアップイベント

08 春の空気が
新しい出会いを届ける

山口情報芸術センター

長期展示作品シリーズ scopic measure

#09 newClear / #10 高嶋晋一

身体×メディアによる表現を紹介

sound tectonics #7 「ATAK NIGHT 4」

革新的なサウンドアーティストがYCAMに集結

中原中也記念館

企画展I「第14回中原中也賞」

今年の中也賞は、芥川賞作家・川上未映子のデビュー作!

山口市市民会館

都響金管メンバーによるミニコンサート

金管5重奏団による楽しいトーク付きミニコンサート

12 any通信

◎アーティストボイス 永井 愛 (劇作家・演出家)

◎お先に試写しました 「ワンダーラスト」

◎いただきます 日替わりベジタブルランチ (「FRANK」)

◎GOOD GOODS 中原中也ソングブック「サーカス」(中原中也記念館オリジナルCD)

◎My Favorite 山口市市民会館職員

14 イベントカレンダー 4~6月

INFORMATION



舞台「僕たちの好きだった革命」に
込めた思いとは…?

舞台作品を数多く手がける一方、エッセイや小説の執筆、
また劇団・虚構の劇団を旗揚げするなど
常に新しい試みに挑戦している鴻上尚史。
「ケイゾク」や「トリック」など斬新な映像・手法で
映画界をリードしている堤幸彦監督の原案をもとに、
鴻上氏が映画のシナリオとして2000年に書いたのが
「僕たちの好きだった革命」。それから7年、ついに鴻上氏自らが舞台化。
そこには「どうしてもこの作品を世に出したい!」という思いがあった。
本作品を通じて彼は何を伝えたかったのか?

劇作家・ 鴻上尚史が 伝えたいこと

INTERVIEW





鴻上尚史 Kōkami Shoji
1958年愛媛県生まれ。劇作家・演出家。早稲田大学法学部卒業。81年、早大演劇研究会を中心に劇団第三舞台を結成。以降、数多くの舞台作品の作・演出を手がけ、「朝日のような夕日をつれて」(87年)で、第22回紀伊國屋演劇賞団体賞、「スナフキンの手紙」(95年)で第39回岸田國士戯曲賞を受賞。舞台公演のかたわら、エッセイスト、ラジオ・パーソナリティ、テレビの司会、映画監督など幅広く活躍中。著書に「発声と身体のレッスン」(白水社)、「表現力のレッスン」(講談社)など多数。



◎あらすじ
1969年、高校2年生の山崎孝義(中村雅俊)は、学園紛争で機動隊と乱闘中、ガス弾を受け意識不明に陥る。30年ぶりに意識を取り戻した彼は、かつて自分がやり残したことを実現するため、母校に復学することを決意。だが、高校は様変わり。生徒たちに主義主張はなく、教師たちもことなかれ主義。だが、あるとき事件は起きる。学校側が一方向的に文化祭の企画をつぶそうとしていることが発覚。47歳の高校生、山崎と、現代の高校生、日比野と未来たちが手を結びにぎりあう。山崎に引っ張られるように、日比野、未来はアジピラを作り、グラウンドでの要求集会を呼びかける。「文化祭を我らの手に!」。だが、その活動も、かつて山崎と行動を共にした闘士たちによって阻まれることになる。果たして、山崎たちは自分たちの手で自主文化祭を無事行うことができるのか…。



作品だと思っ
世に出さないといけ
聞いたとき、

テレビドラマや映画で多数ヒット作を生み出している堤幸彦さんとの共同企画ということですが…。

もともとは堤監督との話し合いで生まれた作品で、監督は映画にしたかったんだね。もうずいぶん前のことで6、7年前になるかな。堤監督とお酒を飲んでいて「こんなアイデアがあるんだよ」と話してくれたのが、めちゃくちゃおもしろくて。「鴻上さん、シナリオ書いてくれる?」と言うから、「おう、書く書く」って答えたの。本来僕は人のアイデアでシナリオを書いたりしないんだけど、この作品は聞いたとき、世に出さないといけない作品だと思ったので、映画のシナリオを書いたんだよね。それでその当時の映画会社の社長に見せに行ったら、その社長が「おれ学生運動嫌いなんだよね」と言われて…。で、終わったんだよ。撃沈。それから堤監督と「映画にできるところをどこか探さないか」と話していたんだけど、なかなかキャスティングなり、予算とかでうまく映画のGoサインが出なかったのね。だから僕がじれて「じゃあ、先に芝居にしちゃうよ」と言っ

て「いいよ、いいよ」ということになって芝居にしたのが、2年前の2007年かな。最初に映画のためにシナリオを書いたのは2000年の初頭だと思います。

映画のために書いたシナリオを舞台にするというのは、大変だったのでは?
確かに映画と舞台は違う。映画は簡単に場所を変えられるし、設定もぼくぼく変えられるけど、舞台はそんなにすぐに変えられないからね。ただ、当初、堤監督から聞いていたのは大まかに69年にガス銃の水平撃ちを受けて意識を失った男が「現在」に目を覚ますという設定だったんだよ。ところがどンドン時間がたっちゃって、団塊の世代の両親をもつ高校生という設定がだんだん無理になってきたので、色々考えて99年の設定にしたのは僕。だからストーリーとしては堤監督の原案があるんだけど、本を書いたのは僕だったので、作品にしやすかったところはあります。でも映画を舞台に読み替えるというか、翻訳するというのはなかなかしんどかったですけどね。

映画だったらよりおもしろかっただろうと思われるのは悔しいから。

他に舞台にされる上でこだわった部分というのはありますか?
やはり舞台のおもしろさが出ないといけないと思っていて、映画だったらよりおもしろかっただろうと思われるのは悔しいから。映画は映画のおもしろさ、舞台は舞台のおもしろさというのをすごく強調しようと思ったわけ。映画だと機動隊を100人出すとか、生徒が600人いるとか映像にするのは簡単なんだけど、舞台でそんなことやっていたら山口まで行けなくなる。だからそこは20人ほどの俳優さんが演劇的な想像力でいろんな人になったりだとか、体育館の生徒を表すとか、そういうことを予算がないからとかじゃなくて、演劇的に豊かな方向で、映画的な風景を翻訳することを楽しもう、そんなことをすごく気にしつつやりましたね。

作品の中で出てくる1969年という時代は、ちょうど鴻上さんは小学生くらいですよ? ニュースなどで学生運動のことはご存知でしたか?
僕はそのころ、小学4年か5年生くらいかな。ほとんど記憶にないね。文化祭は先生が決めるもんだし、学校の規則は変えられるはずがないと思っていた。そうやって生徒が管理され、校則で縛られるのは当たり前というような時代を生きてきたけど、僕が高校生くらいのときに「制服を着たくないから制服を廃止した高校や、文化祭で先生がこれはだめだと言ったものを、『いや、やりたいから』と言って強引にやった高校生がどうも69年くらいにはいたらしいよ」というのを、歴史の出来事のように後々発見したわけだよ。それでなんか面白そうだな、うらやましいなあ、というのがあって調べたわけ。学生運動というのは、70年に入っていくと、内ゲバだったり、非常に陰湿なものになっていくんだけど、68、69年というのは、本当に若い奴らが、自分の文化を作るためにある意味壮大なお祭りとしてやったところがたくさんあっ

てね。バリケードも要は椅子や机を積み上げて校門塞いで、教師や警察を入れないようにして、でも中でちゃんと自分たちが本当に知りたいと思っている授業をやるとかね。それがお祭りのように繰り広げられていたのを後から知ったんだね。

たぶん何も解決していないまま続いているからじゃないかな。

なぜいま学生運動をとりあげるのでしょうか?
それは堤監督も僕も同じ思いだと思う。堤監督は、俺より3つくらい上かな。彼は大学生のころにヘルメットかぶって学生運動をやっているんだよね。ぎりぎりだけど。でもね、なんでとりあげたかという、学生運動をやっていたからではなくて、あの当時言われていたことが、たぶん何も解決していないまま続いているからじゃないかな。あの当時学生



恥をかかないことよりも、
笑われないことよりも、
もっと大切なことが
山ほどある

の反乱があつて抗議の声をあげていたけど、それがちゃんと解決されているんだつたら改めてとりあげる必要はないと思う。だけど、あの当時みんなが言っていたことが、何も解決されないどころか、少しもいい方向に進んでいないと思うから、あの時代からやってきたドンキホーテを想像したんだと思うんだ。本当の意味での学問とは一体何だろうというところを、学生運動は問いかけていたのに、それに対しては未だに何の答えも出ていないというところがある。

彼が「クラスメイトじゃないか」と発した時のおおらかさというか、圧倒的な説得力は衝撃だったね。

キャストについて、中村雅俊さんを主演に選ばれた理由は？ たくさん青春ドラマに出ていらっやっやっ、まさに「青春」を背負っていらっやっやっような方ですね。

本当にそう。日本が一番希望に満ちていた高度経済成長と呼ばれる、いわゆる不況とは真反対の、世の中の矛盾は色々あるけれど、間違いなく僕たちは希望に向かって進んでいるんだということを日本人全体が信じられていた時代を象徴・強調する人だね。それは実はキャスティングした段階ではよく分かっていなかったけど、稽古場で中村さんが微笑みながら「だってクラスメイトじゃないか」という台詞を言ったときに、稽古場全体に衝撃が走ったんだよね。その説得力に。「そおだよなあ。クラスメイトなんだよな」という気持ちになって。今だったらそんなことを言われたも「馬鹿じゃないの」と思うんだけど、誰かが中村さん演じる山崎に向かって「何でそこまでしてくれるの？」と聞いた時に、彼が「クラスメイトじゃないか」と発した時のおおらかさというか、圧倒的な説得力は衝撃だったね。それは稽古が始まってまだ2・3週間目だったんだけど、この人にキャスティングを頼んで本当に大正解だったと思ったよ。



片瀬那奈さんはいかがですか？

那奈は、初演の時が初舞台だったんだけど、いまどきの女の子という感じがして、すごく可能性を感じたので、ちょっとやってみてくんねえかなと思って頼んだら、これも大正解だったね。とても初舞台とは思えないくらいいい演技だったね。

他のキャストについては？

塩谷瞬は映画「パッチギ」を見てすごく感動したんでね。すごく素敵だなあと思って。今回も同じようにかなり優柔不断な頼りない感じの男の子の役で、好きな女の子に気持ちを打ち明けられなくてうじうじしているところなんてまさにそう。そういう意味でぴったりだよ、今回の役に。



中村雅俊 NAKAMURA Masatoshi

1951年宮城県生まれ。歌手・俳優。大学卒業と同時に文学座入団。青春ドラマ「われら青春」の役役に抜擢され人気を博す。永遠の青春俳優としてテレビ、映画、舞台で活躍中。また歌手活動やテレビ番組の司会を務めるなどマルチな才能を遺憾なく発揮する今最も注目されるタレントの一人。



片瀬那奈 KATASE NANA

1981年東京都生まれ。女優・タレント。99年、ドラマ「美少女H2」主演でデビュー後、数々のドラマ・映画・CMに出演。07年の初演「僕たちの好きだった革命」で、舞台に初挑戦。初めてとは思えない堂々とした演技に注目が集まった。映画「フラガール」の舞台化(08年)では、主演を務める。

ずばり、今回の作品の一番の見どころは？

作品の見どころとしては、中村さんの世代、いわゆるおじさんおばさんの世代と、それから若い世代の両方のぶつかり合いかな。だから結果としてこの作品は非常に幅広い世代に楽しんでもらえる作品になったと思う。ラッパーのGAKU-MCさんには、中村さんが歌うのを周りで見ているシーンがあって、その時自然に客席が見えるんだよね。初演の時、GAKUさんが芝居が終わった後で、「いや〜、今日はなんかぼろぼろ号泣しているオヤジがいましたよ」と言っていて、びっくりしたことがあって…。つまりは年を重ねてきた団塊の世代も感動できる。それは若い人たちも同じ。中村さんが演じている山崎というのは、ある意味ドンキホーテで、傷ついても傷ついても風車に向かって進んでいくような存在で、「正しく負けなければいけない」「何回負けてもいいんだよ」という山崎の言葉に対して、片瀬ちゃんが演じる「未来」とか、瞬が演じる「日々野」とおして、非常に共感を得るというか。若い人は若い人で自分たちの存在を、中

「初演のとき、だいたい俺と同じ世代、団塊の世代の人たちは勿論、若い人たちも非常に感激して帰っていただいたことを覚えています。終演後の楽屋でも、ものすごい熱気をとまなつて会いに来てくれたんですよ。今回の再演にあたって、いろんな方々に舞台を見に来ていただきたいです。熱情を注ぎ込める「何か」を求めてる人にも大きな刺激を与えられる作品だと思います」

「この作品は、99年のお話で、私もそのころ高校生だったので、演じるというよりは昔の自分をよみがえらせながら等身大でできたらいいなと思っています。学生運動もあり、時代背景が色々出てきますが、どの時代でも同世代では同じようなことを考えて、同じように悩んで、葛藤している。現代、過去、未来って繋がっているんだってこの作品を観ると改めて思います」

村さんから認めてもらって、生きていく勇気をもらうみたい。だから若い人は若い人なりに楽しめるし、年配は年配なりに感動できる芝居になったというのが一番の見どころじゃないかな。

最後に、読者にメッセージをお願いします。

山崎のある種、ドンキホーテぶりをみることで、自分が何をしなければいけないのかを、自分なりに考えるようになる。つまり山崎から勇気をもらうんだよね。山崎は笑われても、笑われたことに対して気にしていないというか。それはいまの若い人たちが周りをすごく気にして、まず笑われないこととか、恥をかかないことを気にするわけだけど、山崎を見ていると「いや、恥をかかないことよりも、笑われないことよりも、もっと大切なことが山ほどある」ということに気付くんじゃないかな。だから、若い人にも何かを残した作品になったので、すごくよかったなと思っています。山口は僕にとって初めての土地。たくさんの方が僕の作品を観に劇場に来てくださることを願っています。

KOKAMI@network vol.10

「僕たちの好きだった革命」

2009年6月29日(月) 19:00開演 (30分前開場)

会場:山口市市民会館 大ホール

[チケット情報] any会員先行予約 4月4日(土)〜 一般発売 4月18日(土)〜

[料金]全席指定 ※未就学児入場不可
前売 一般S席 4,000円 A席 3,000円
※any会員は各500円引

当日 S席 4,500円 A席 3,500円
※当日券は割引の対象外

[企画原案]堤 幸彦

[企画原作・脚本・演出]鴻上尚史

[出演]中村雅俊、片瀬那奈、塩谷瞬、森田彩華、GAKU-MC、大高洋夫、田島令子 ほか

関連イベント

劇作家・鴻上尚史が語る 舞台「僕たちの好きだった革命」

2009年4月5日(日) 13:00〜

会場:山口情報芸術センター ホワイエ

本作品の原作者であり、脚本・演出を手がける鴻上尚史を招いてトークイベントを開催。「僕たちの好きだった革命」ができるまでのエピソードや裏話、見どころなどを作者本人が語ります。あわせて、独自の手法を使った演劇ワークショップを各地で行うなど、その幅広い活動についても紹介します。

[料金]無料(申込不要)

PRESENT

「僕たちの好きだった革命」の公演チケットや関連書籍、出演者のサインなどをプレゼントします。

[申込方法] ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、号今の「any」の感想をご記入の上、4月30日(木)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A 「僕たちの好きだった革命」公演チケット(ペア5組)

B 小説「僕たちの好きだった革命」(1名) ※サイン入り
鴻上尚史著、角川学芸出版、2008年刊。



C 中村雅俊サイン色紙(1名)

D 片瀬那奈サイン色紙(1名)

[あて先] 〒753-0075 山口市中国町7-7 (財)山口市文化振興財団
「any vol.68 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216 e-mail: any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。



【学生運動】 学生によって展開される、政治的・社会的な活動のこと。日本で最も盛り上がりを見せるのが、1960年の安保闘争、68年から70年の全共闘運動、学生闘争のとき。68年頃から登場する全学共闘会議(全共闘)は党派や学部を越えた組織として大きな勢力となっていき、鎮圧していく警察の機動隊とぶつかりあうようになる。70年以降は、暴力をとまなう内部紛争(=内ゲバ)へと激化していき陰惨なものになるが、80年以降には学生運動そのものも影をひそめていく。



◎素晴らしい生演奏に出会えて感激!! もっとPRをして一人でも多くの人に聞く機会を与えてほしい。(「Op.∞」関連企画「カラダで感じる生演奏(YCAM茶話会)」より)
◎直筆の原稿や手紙等、直に読め、見られてよかったです。(60代女性「中世の兄弟たち」より)
◎案内すらすらインタラクティブアートになっていて素晴らしいと思った。このような展示は大変うれしい。(「ミニマムインターフェース」展より)
◎説明文が分かりやすく、でも中世への愛に満ちていました。(20代女性「友情—君と僕との命はかぶり」より)

山口情報芸術センター (YCAM)

http://www.ycam.jp/

長期展示作品シリーズ scopic measure #09

newClear新作「skinslides」

長期展示作品シリーズ scopic measure #10

高嶋晋一「Pascal pass scale」

2009年4月25日(土)～8月10日(月) 10:00～20:00

会場: ホワイトエ、2Fギャラリー

身体×メディアによる表現を紹介

コンピューターなどの先端技術を柔軟に使いこなす若手芸術家たちの新しい表現を紹介する展示シリーズ「scopic measure」。これまでに多数のアーティストが斬新なアイデアと独自の視点を取り込んだ刺激的なアート作品を提案してきました。



newClear [skinslides]

この春登場するのは、2組のアーティストやダンサーが“身体×メディア”をキーワードに制作した2作品。YCAMのオリジナル企画「混舞—DANCE MIX」

(2007)にも振付家として参加したイタリア出身のアレッシオ・シルヴェストリンと、ダンスユニットちくはを軸にダンス活動を展開する大脳理智によるnewClear。床に映るダンサーの動きが、観客の動きとともに変化していく作品を紹介します。また、ビデオを使ったインスタレーションやパフォーマンス作品を手がけてきたアーティスト高嶋晋一は、身体感覚の均衡とズレを意識させる作品を発表します。

わたしはココに注目する!

現代のコンテンポラリーダンスへ多大な影響を与えてきた世界的なダンサー・振付家のスティーヴ・バクストンによる新作展「Phantom Exhibition」も同時開催。今回のscopic作品とあわせて、総合的に身体表現の可能性を提案していきます。アートファンもダンスファンも必見!!

料金 | 無料

※スティーヴ・バクストン「Phantom Exhibition」(5/24～8/31)の詳細については、http://www.ycam.jp/をご覧ください。

sound tectonics #7

ATAK NIGHT 4

2009年4月29日(水・祝) 19:30開演

会場: スタジオA

革新的なサウンドアーティストがYCAMに集結

サウンドと映像・空間デザインの関係性、情報技術の可能性を探るライブコンサートシリーズ「sound tectonics」。7回目となる今回は、70年代からニューヨークに渡り、実験的音楽の最前線で活動してきた音楽家、刀根康尚を中心にしたコンサートを行います。他に、フィンランド出身の2人組Pan sonicと、06年にYCAMで発表した三次元立体音響とLEDを駆使したアート作品「filmachine」でも世界的に高い評価を集めているATAKの渋谷慶一郎、evalaが参加。



刀根康尚 photo: Hiro Inada

YCAMの空間と機材、スタッフの技術を存分に生かした映像+ライブパフォーマンスとなります。今回、楕円形に観客を取り込んだ8チャンネルの音響システムを使用。独自に作り出した新しい音響空間がYCAMに出現します。

わたしはココに注目する!

今回は東京、京都もめぐるツアーライブですが、他会場では実現できない空間と環境を提供するYCAMならではのライブが体験できます。また、70歳を超える現在でも、精力的に活動を続ける刀根康尚の山口初ライブパフォーマンスにもご注目を!

チケット情報 | 発売中

料金 | オールスタンディング 前売 一般 2,000円 any会員/特別割引 1,700円
 当日 2,500円

[出演] 渋谷慶一郎(ATAK)、Pan sonic(ミカ・ヴァイニオ、イルボ・ヴァイサネン)、刀根康尚、evala(ATAK、port)

- 特別割引: 青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学時入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

春の空気が
 新しい出会いを
 届ける



第14回中原中也賞受賞作品
 「先端で、さすわ さされるわ そらええわ」

毎年この時期に耳に届く「中原中也賞」受賞のニュース。中原中也賞とは、新鮮な感覚を備えた優れた現代詩の詩集に対して贈られる賞のこと。贈呈式は中也の誕生日4月29日に行われ、受賞者と受賞詩集を紹介する展示も始まっています。また、記念館の前庭では、中也生誕祭「空の下の朗読会」が催されます。暖かい春の空気の中、詩を楽しむために出かけてみてはいかがでしょう?

A	B
C	D
E	

- A. 昨年の中原中也賞贈呈式の様子
- B. 「第14回中原中也賞」 受賞者 川上未映子
- C. 「ATAK NIGHT 4」 渋谷慶一郎
- D. 「都響金管メンバーによるミニコンサート」
- E. newClear [skinslides]



photo: MINARICH



解体

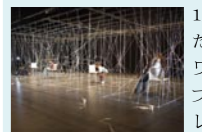
滞在制作



アーティストが約1カ月間にわたってYCAMに滞在し、アートや舞台作品を制作・発表する「滞在制作」。YCAMの企画者・技術スタッフ、アーティストがともに話し合いながら制作していくことで、YCAMがもっているノウハウやアイデアを生かしたオリジナル作品を生み出しています。5周年のラストを飾る滞在制作では、ダンスカンパニー珍しいキノコ舞踊団とアートユニットplaplaがダンス公演「The Rainy Table」を制作。2組の新しい出会いをYCAMがプロデュースし、それぞれの持ち味を生かした魅力的な舞台作品を制作しました。次回は、京都を拠点に活躍する松田正隆率いるマレビトの会が登場。新作の演劇公演を8月に発表します。

ワークショップレポート

「感覚アスレチック」
 ワークショップ



1月に開催した身体表現ワークショップ「感覚アスレチック」

では、いつもは劇場として使われているスタジオAに、約300本のゴムを張りめぐらせ、立体的で巨大な「くもの巣」のような空間を用意。小学生から大人までの計20名の参加者が、柔軟に変形するゴムの中で体を動かし、普段感じることのない自分の体と外との境界線や、周りに広がる様々な形の空間を発見していました。あらゆる筋肉と神経を集めさせるので、終了後は、皆さん頭も心も活性化された様子。さて、次は6月の煙巻ヨーコパフォーマンス公演の関連イベントとして、「即興で踊る」をテーマにダンスワークショップを行います。こちらもぜひご参加を!

煙巻ヨーコ
 ダンスワークショップ

2009年6月19日(金)～21日(日)

※3日間通し(要申込)

会場: 山口情報芸術センター
 スタジオA

※時間・申込方法等詳しくは
 お問い合わせください。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展 I

「第14回中原中也賞」

2009年4月22日(水)～7月20日(月・祝)

今年の中也賞は、芥川賞作家・川上未映子のデビュー作!



新鮮な感覚を備えた優れた現代詩集に贈られる中原中也賞。有望な新人を発掘する賞として毎年、注目を浴びています。今年は、全国

現代詩の新領域を切り拓いたと高く評価されました。芥川賞作家として既に知られている彼女ですが、詩集のタイトルとなった作品は、芥川賞受賞作以前に発表されたもので、この作品で文筆家デビューを果たしました。歌、小説、映画と様々なメディアに出現し、表現している川上未映子。彼女が紡ぎだす言葉は、どんな風にして生まれてきたのでしょうか。企画展では、彼女の世界を、ゆかりの品々と共にご紹介します。

わたしはココに注目する!

昨年の受賞者からは、愛用の色鉛筆やCD、愛読書などのゆかりの品々が送られ、詩が生みだされる空気のようなものが展示で再現されました。さて、今年は川上さんから何が届くのか、展覧会に来てのお楽しみ。

料金 一般 310円(262円) / 大学生 210円(157円) / 小中高生 150円(105円)
※4/29(水・祝)、5/5(火・祝)は無料
※70才以上は無料 ※()内は20人以上団体料金

第14回中原中也賞受賞者



川上未映子
KAWAKAMI Miko

「詩集を出すということは、悲願でした。私にとって特別な意味を持つ中也を記念する賞に対しては、ほかのどの賞とも違う気持ちがありました。よかったです。これからは、激しく問うて問われ、あらゆる批評やもくろみや分析が追いつかないような詩作に精進したいと思います。ありがとうございました」(川上未映子)

1976年大阪府生まれ。文筆家。2005年、「先端で、さすわ さされるわ そらええわ」(「ユリイカ」青土社)で文筆家デビュー。07年初めての中編小説「わたくし率 イン 歯一、または世界」(「早稲田文学0」)で第137回芥川賞候補となる。08年「乳と卵」(文藝春秋)で第138回芥川賞を受賞。執筆業のかたわら、音楽家また女優としても活躍。

【選考評】

読んでいて嫉妬心を覚えるくらい強い刺激を与えてくれた。(荒川洋治/現代詩作家)

80年代の女性詩を思い出し、懐かしい感じがした。最初の3篇が良く、特に冒頭の詩は温泉につかっているような感じがした。(井坂洋子/詩人)

やわらかく、かつ力強い語り口で散文的に見えるが、従来の詩にない新鮮さを感じた。(北川透/詩人・梅光学院大学特任教授)

初めて読んだとき、メジャーリーグ級の詩人が登場したと感じた。限定された詩の言葉ではなく、日本語という大きな枠のなかで言葉を広げる手法は、これからの日本の詩壇を勇気づける。(佐々木幹郎/詩人)

哲学的思考が強く、ラジカルな可能性がある。他の詩集が現代詩の中の言葉で書いている中、川上氏は、言葉そのものを問題にして書いている。(佐藤泰正/梅光学院大学特任教授)

断トツだった。現代詩にとって一つの事件。詩の世界に閉じこもった作品が増える中、現代と詩が直接結びついた。(高橋源一郎/作家・明治学院大学教授)

「先端で、さすわ さされるわ そらええわ」より抜粋

一日は憂鬱でありやくそく、叱責でありときどき逢瀬であり、自分と同じでかさ質量のずだ袋を引きずって、ずーるずーる歩く行為であって、それがわたしのコーヒーの飲めやん癖とどう関係してるんかということとはまったく考えたくないなあ。

電車にのったら顔中にボン菓子子の乾いて甘いであろう粒粒をつけてる人がいて、しんどなる、わたしははってゆったら昨日の夜中、でっかいシイタケの毛の長い、毛というのか、茂ったへた、へたというのでしょうか、……



第14回 中原中也賞

●中也の兄弟たちの知らなかったことや中原家のこと、時代の背景も伺えた。(60代女性 「中也の兄弟たち」より)
●子どもたちにも自分にできることを考え、食べものに感謝できる子どもに育ってほしいです。(30代女性 前進座「龍の子太郎」より)
●とにかくおどろきの連続だった。不思議と見たあと開放的な気分になった。(20代男性 「Op.」より)
●人のために力をつかう。いつでもだれかを思っている。そんな太郎をみならわないとなぁ、と思いました。(10代女性 前進座「龍の子太郎」より)

山口市市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

東京都交響楽団オーケストラコンサート プレイベント I

都響金管メンバーによるミニコンサート

2009年7月4日(土) 13:00開演 / 15:00開演 (予定)

会場: 山口市中心商店街(道場門前第一駐車場前)、山口情報芸術センター(ホワイエ)

金管5重奏団による楽しいトーク付きミニコンサート



2年前にも息をのむような素晴らしい演奏を聴かせてくれた東京都交響楽団が、今秋再び山口を訪れ、さらに円熟味を増した音と演奏を披露してくれます。今回もコンサートだけではなく、気軽にクラシックを楽しむことができるプレイベントをいくつかご用意しました。

その第一弾が、今回ご紹介する金管メンバーによるミニコンサート。市内2カ所をメンバーがめぐり、楽しい解説付きで演奏します。場所は中心商店街の駐車場前。屋外なのでとても

金管メンバー岡崎耕二さんからのメッセージ



山口の皆さんこんにちは! 今回の山口でのミニコンサートは、東京都交響楽団(ぜひ「都響」と覚えてください!)の中の金管楽器奏者5名で演奏します。クラシックの名曲から皆さんご存知のあの曲まで。中には、え!? こんな曲も? という意外な曲が出てくるかもしれませんよ。さて、どんな曲が飛び出すのか、それは当日までのお楽しみに。

このミニコンサートを聴きに來られたみなさんにとって、とても楽しい時間になることをお約束します。私たち5人の演奏を聴けば、9月の都響コンサートがもっともっと楽しくなりますよ!

岡崎耕二 OKAZAKI Koji

島根県益田市出身。東京都交響楽団首席トランペット奏者。またトランペットアンサンブル「ザ・トランペットコンサート」のメンバーとしても幅広く活躍中。益田で定期的に開催している「トランペット塾」や、トランペットの呼吸法を伝えるクリニックなど教育活動にも積極的に取り組んでいる。

料金 | 無料

[出演] 岡崎耕二・中山隆崇(トランペット)、西條貴人(ホルン)、小田桐寛之(トロンボーン)、久保和憲(チューバ)

東京都交響楽団オーケストラコンサート

2009年9月4日(金) 19:00開演
会場: 山口市市民会館 大ホール

チケット情報 any会員先行予約 6月6日(土)～

一般発売 6月20日(土)～

料金 全席指定 一般 S席 5,000円 / A席 3,000円

※any会員各500円引、高校生以下各半額

[指揮] 小泉和裕



©竹原伸治

■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

ホールに おいでませ

「山口大学
マンドリンクラブ」
(創立50周年記念演奏会)

2009年5月16日(土)

18:00開演

会場: 山口市市民会館 大ホール



イタリア生まれの楽器で、イチジクを縦に割ったような形のマンドリン。2本ずつ対になった弦を同時に弾くことで、美しく澄み切った音色を奏でます。そんなマンドリンを愛する山口大学マンドリンクラブは、今年で創立50周年。今回はOB・OGを迎え総勢約100名による大迫力の合同演奏会を行います。オーケストラ編成でマンドリン、クラシックギターなどの弦楽器の他、フルート、ティンパニーなども加わります。幅広い世代の先輩方と演奏することで、その歴史の厚みを感じて頂けるような演奏会にしていきたいと考えています。

(山口大学マンドリンクラブ)

[料金] 無料

先行チケット
発売情報
早チケ 4月18日
発売!

平成21年度松竹新派名作劇場
「女の一生」

2009年7月15日(水)

18:30開演

会場: 山口市市民会館 大ホール



34歳でこの世を去った劇作家・森本薫が、今は亡き女優・杉村春子のために書いた「女の一生」。杉村が生涯をかけて30年以上演じ続け、演劇史に大きな足跡を残しました。今回はこの不朽の名作を、121年の歴史を誇る「新派」が挑みます。主役・布引けいには波乃久里子、けいが密かに思いを寄せる堤栄二には風間杜夫、その他、新派初登場の司葉子など、ベテラン俳優陣で円熟した舞台をお届けします。

[チケット発売]

一般発売 4月18日(土)～

[料金] 全席指定

前売 一般 S席 6,000円

A席 5,000円

B席 4,000円

※any会員各300円引

※当日券は各300円高

any通信

冬の眠りから目覚めた虫や植物たちが
一斉に活動を始めるこの時期。
なんだか自然と外へ出かけたくなる、
そんな気分になります。



中也に捧げる詩と音楽の日

詩人・中原中也の誕生日に毎年行われる「空の下の朗読会」。この日、中也記念館の前庭は、詩の朗読会やゲストによる音楽コンサートなどでにぎわいます。朗読会は一般の方も参加OK。自慢の自作詩をひっさげ、あるいはお気に入りの中也の詩を選んで、参加してください。またコンサートでは、60・70年代に日本のフォーク界をリードした「六文銭」が、名前を「まるで六文銭のように」と変えて登場。中也の詩「サーカス」



や「月夜の浜辺」などを歌で聴かせてくれます。同日夕方からは場所を変え、中也賞の贈呈式や記念講演も行われますので、こちらもご参加を。

中原中也生誕祭「空の下の朗読会」
2009年4月29日(水・祝)
13:00～15:00 (詩の朗読希望者は12:30より受付)
会場:中原中也記念館 前庭
(雨天の場合、ホテルニュータナカ)
[出演]まるで六文銭のように
(小室 等・及川恒平・四角佳子・こむろゆい)
[料金]無料 (当日は、記念館への入館料も無料)

「第14回中原中也賞贈呈式&記念講演」
2009年4月29日(水・祝)
16:30～17:00 「贈呈式」
17:20～18:20 記念講演
「中原中也—フランスへの旅」
(佐々木幹郎/詩人)
会場:ホテルニュータナカ
[料金]無料

ラーメンズ、完売御礼!

人気コントグループ「ラーメンズ」の新作公演「Tower」を5月16、17日に山口情報芸術センターで行います。すでにチケットは完売。残念ながら今回チケットを逃した、という方、また次回にご期待ください。

(当日券については、公演日近くにお問い合わせください。)



ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

永井 愛 (劇作家・演出家)

日本を代表する劇作家として活躍を続ける永井愛さん。ご自身が主宰を務める劇団二兎社では、これまでに3作品を山口で上演。そのうち2作品は山口が最後の上演地だったこともあり、思い出も深い様子。たくさんの優れた舞台作品を世に送り出し、多くの地で上演を重ねてこられた永井さん。山口ではどのような思い出がその胸に刻まれたのか、教えてください。

解放感と寂しさが入り混じるなかで



最近作「書く女」と「歌わせたい男たち」は共に山口で千秋楽を迎えたので、解放感と寂しさの入り混じった思い出があります。

「書く女」は樋口一葉の作家としての成長を追ったものですが、山口でのラストステージは、奇しくも一葉の命日。朝からしっとり雨が降り、ふだんなら客足を心配する皆も、「一葉さんが別れを惜しんで

るんだ」なんて、かえって励まされたものでした。湯田温泉を何度も楽しんだ一葉役、寺島しのぶさんのホッと緩んだ表情がつかややかでした。

「歌わせたい男たち」は、都立高校での「君が代」斉唱問題に取り組んだ喜劇。初演から数えて110回目の最終公演を終えた後、戸田恵子さんたち出演者と夜の瑠璃光寺を訪ねました。ライトアップされた五重塔を見上げていると、「終わったなあ」という感慨以上の歴史的な時間に吸い込まれてゆくようでした。戸田さんのブログの写真の中で、五重塔は今もあの夜の輝きでいます。

「萩家の三姉妹」(出演:渡辺えり子 ほか)
2003年11月12日(水)・13日(木)
会場:山口情報芸術センター スタジオA

「書く女」
(出演:寺島しのぶ、筒井道隆 ほか)
2006年11月22日(水)・23日(木・祝)
会場:山口情報芸術センター スタジオA



「歌わせたい男たち」
(出演:戸田恵子、近藤芳生 ほか)
2008年5月1日(木)
会場:山口市民会館 大ホール

永井愛 NAGAI AI

劇作家・演出家。81年、大石静と二兎社を設立。94年から制作の「戦後生活史劇三部作」は、時代の変化を個人の生活の場から描く群像劇として、大きな反響を呼ぶ。99年「兄弟」で第44回岸田國士戯曲賞を受賞。05年「歌わせたい男たち」で読売演劇大賞最優秀作品賞・朝日舞台芸術賞グランプリをダブル受賞。社会批評性のある作品を生み出す劇作家としていま最も注目を集める1人。



お先に
試写し
を
しまし
た

「ワンダーラスト」

(2008年/イギリス/84分/カラー)
第58回ベルリン国際映画祭 パノラマ部門正式出品
第22回東京国際映画祭 特別招待作品

ロンドンに住み大きな夢を持つ3人の若者達。でもその現実とは…。よくありそうな青春ストーリーなので、「観る気にはならない…」という人もいるかもしれないが、あのマドンナの映画監督デビュー作と説明すれば、興味を持つ人も俄然多いのではないだろうか。マドンナ自身を投影したという主役の3人の若者達はとても魅力的。彼らを中心とした人物網の中で繰り広げられるドラマの中には、葛藤や挫折・絶望はあれど、それぞれのささやかな愛があり、彼らの夢が実現へと近づいていけるような明るい伏線を感じることができる。劇中で頻りに語られる哲学的な言葉も、難解な押し付けがましさなど感じさせず、サウンドトラックとスタイリッシュな映像が強く印象に残る。一見、挑発的には見えるが、常に前向きに人生を生き、夢をかなえ続けてきたマドンナ自身の哲学とこだわりを垣間みることが出来た本

作に次回作も期待せずにはられない…。と、言いながらも、映画ではなく、また別の何かを始めるのではないかと憶測してみたくて仕方がない。

松富淑香 (YCAM シネマ担当)



2009年6月5日(金) 13:30～/19:00～
6日(土) 13:30～/15:30～
7日(日) 13:30～/15:30～
会場:山口情報芸術センター スタジオC
[料金]一般 1,000円 any会員/学生 800円
ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)
障がい者/介護の同行者1名 500円

「ワンダーラスト」

[監督]マドンナ [出演]ユージン・ハッツ、ホリー・ウェストン、ヴィッキー・マクア、リチャード・E・グラント

ミュージシャンとしての成功を夢見るAK、バレリーナとして舞台上立つことを夢見て、日夜練習に励むホリー、アフリカの貧しい子どもたちを救いたいと願うジュリエット。ロンドンで同じアパートに住む、若者たちの日常を描いた青春ストーリー。絵本作家、女優など、多くの顔を持ち、世界中が常にその動向に注目する、アメリカのポップスター・マドンナの映画監督デビュー作。

My Favorite

やわらかな日差しを浴び、青い空に向かって真っ直ぐに伸びるサビエル教会の姿は、気持ちよさそうに背伸びをしているかのよう。毎日休むことなく時を刻み、町中に響き渡るその鐘の音は、今日も私の流れを教えてください。

M.Y (山口市民会館職員)



いただきます



日替わりベジタブルランチ
1,050円(税込)

体がよるこぶ野菜ランチ

大きな木のお盆に、ご飯とみそ汁、メインのおかず、4種類の小鉢とサラダが、どかんと乗って運ばれてきた! 本日のメインは、外は揚げたてのりばり、中はふわふわの「がんもどき」。口に入れた瞬間からじゅわーっと広がるだし汁がおいしくて、体に沁み込みます。メルヘンファームから届いた生野菜のサラダは、くせがなく、野菜本来の甘みに感激!! その他にも、菜の花・小松菜のおひたし、玄米ごはんは、お米のみそ汁など、おいしただけじゃなく、どれも体をきれいに元気にしてくれるFRANK自慢の野菜ランチ。ゆったりと過ごせるお座敷スタイルの空間にも気持ちや和みます。(any会員限定のポイントカードあり)

「FRANK(フランク)」
山口市道場門前2-4-19-2F
TEL.083-932-4836
営業時間:12:00～23:00 火曜休み

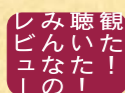
GOOD GOODS



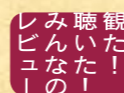
中原中也記念館オリジナルCD
中原中也ソングブック「サーカス」

中也の詩を音楽でお楽しみください。毎年、4月29日の中原中也生誕祭では、中也の詩をもとに、音楽家たちが新しく曲を作って歌い、詩人が朗読するコンサートが行われてきました。このCDには、そのとき生まれた曲を中心に、おおたか静流や小室等たちの歌、ピアノによるインストゥルメンタル、詩人・谷川俊太郎の朗読とピアノのコラボなど、選りすぐりの声と音楽が収録されています。また、中也自身の朗読を聴いた経験をもつ詩人・草野心平が「サーカス」を朗読(昭和46年発行・レコード「中原中也の世界」より)。その語り口は胸に響くものがあります。中原中也記念館あるいはネット(<http://www.chuyakan.jp/>の「記念館オリジナルグッズ」)でお求めください。

価格:3,000円(税込) 11曲収録/2004年参加アーティスト:おおたか静流、小室 等、谷川俊太郎、フェビアン・レザバネ、草野心平 ほか



●突然はじまり唐突に終わる。反復する動きやダンサー2人の会話。チェロの音色や映像がコラージュのようで鮮烈でした。(Op.∞より)
●中也の知られざる素顔がみえて、親近感がわいた。(50代女性 「中也の兄弟たち」より)
●息づかい等も一つの音として表わしているところがとても興味深く感じました。(30代女性 「Op.∞」より)
●メディアアートは感いさえうまく取り扱えば、幅広い年代に訴えられる分野だと思いました。(30代女性 「ミニマムインターフェース」展より)



●最先端のテクノロジーとダンサーの体をつかって操作するというアナログ的な部分が不思議な空間でした。(40代女性 「Op.∞」より)
●友人と一緒にいることができたからよかった。中也の友人への接し方は、私と正反対の方法で、でも私の憧れの方法で、何だかほほえましいというか、心がじんとした。(20代女性 「友情—君と僕との命は×リより」)
●ふだん見られないところが見られてとてもおもしろかった。これからは見方をかえてみたい。(10代女性 「The Rainy Table」関連企画「バックステージツアー(YCAM茶話会)」より)

4 April

5 May

6 June

掲載内容は2009年3月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM) http://www.ycam.jp/	アート	25 scopic measure #09 newClear新作「skinslides」(本誌P9参照) scopic measure #10 高嶋晋一「Pascal pass scale」(本誌P9参照)	24 スティーヴ・バクストン新作展「Phantom Exhibition」 ※5 / 24 関連トークおよびデモンストレーションあり	~8 / 10 ~8 / 31
	ライブ	29 sound tectonics #7 「ATAK NIGHT 4」(本誌P9参照)		
	シアター	5 劇作家・鴻上尚史が語る 舞台「僕たちの好きだった革命」(本誌P7参照)	16 17 ラーメンズ第17回公演 「Tower」(本誌P12参照)	6 劇作家・松田正隆レクチャー 27 煙巻ヨーコダンスパフォーマンス ※6 / 19~21 関連ワークショップあり
	シネマ	3 5 コミュニティシネマ 「真木栗ノ穴」 ※PG-12 17 19 コミュニティシネマ 「落下の王国」 1 川島雄三監督特集 「選んできた男」「幕末太陽傳」「暖簾」 「貸間あり」「花影」「女は二度生まれる」 5 川島雄三監督特集 「わが町」「グラマ島の誘惑」 「しとやかな獣」 24 26 コミュニティシネマ 「ミツバチのささやき」 「エル・スール」 8 10 川島雄三監督特集 「東京マダムと大阪婦人」「青べか物語」 「洲崎パラダイス 赤信号」	15 17 川島雄三監督特集 「わが町」「グラマ島の誘惑」 「しとやかな獣」 29 31 川島雄三監督特集 「愛のお荷物」「雁の寺」 「喜劇とんかつ一代」	5 7 コミュニティシネマ 「ワンダーラスト」 ※PG-12 (本誌P13参照) 12 14 コミュニティシネマ 「シェルブールの雨傘」「ローラ」 「ロシュフォールの恋人たち」 19 21 Select CINE TECTONICS=6 ジャン＝リュック・ゴダール監督特集 「彼女について私が知っている二、三の事柄」 「男性・女性」「ゴダールのマリア」
山口市民会館 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/		16 「山口大学マンドリンクラブ 創立50周年記念演奏会」(本誌P11参照)	29 「僕たちの好きだった革命」(本誌P3~7参照) ※4 / 5 関連トークイベントあり(会場:山口情報芸術センター)	
中原中也記念館 http://www.chuyakan.jp/	開催中 常設テーマ展示「哀悼の詩—愛するものが死んだ時には」	29 中原中也生誕祭 「空の下の朗読会」 (本誌P12参照)		~2010 / 2 / 7 ~7 / 20
	開催中 企画展Ⅲ「中也の兄弟たち」、山口お宝展	22 企画展Ⅰ「第14回中原中也賞」(本誌P10参照)		

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話 チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

TEL. 083-920-6111

窓口 チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りは近隣のセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口 ※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上

[料金] 1人につき500円、
2人目以降は1人につき300円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分150円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで
(山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

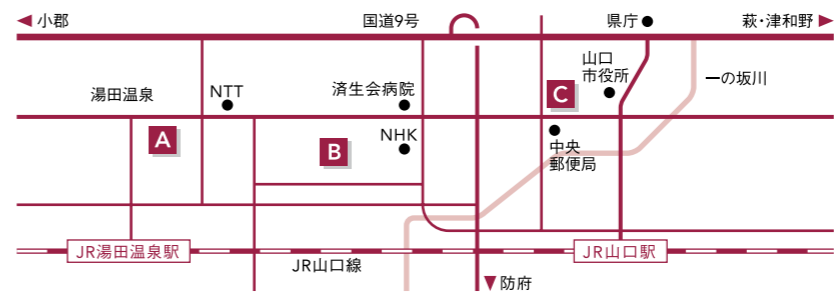
※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



財団法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

この春から、any会員の特典が増えました。P13の「いただきます」でもご紹介したカフェ「FRANK」で会員限定のポイントカードがもらえることに。ポイントがたまると割引でお食事ができますよ! たくさんご利用ください。[M.M]

特集のために、鴻上尚史さんとお会いしましたが、その気さくなお人柄と深いお考えに感激。4月5日のYCAMでのトークでもきっと面白いお話が聴けるはず、と誰よりも心待ちにしている私でした。[M.D]

A 中原中也記念館

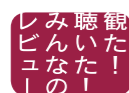
〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp



●友人を中心に短い生の中の中也が浮かび上がってくる。(50代女性「友情—君と僕との命はカマリ」より)
●自身が作品の一部になるというめずらしい体験ができた。とても面白かったです。(「ミニマムインターフェース」展より)
●まばたきで画面が変わるやつには、かなりドッキリしました。(10代女性「ミニマムインターフェース」展より)
●赤鬼が一人ばっちだったけどかわいくて好きになった。(10代女性 前進座「龍の子太郎」より)



●自分の日常で接することのない演奏会でした。たまたまポスターを見て参加しました。大変良かったと思います。(「Op.∞」関連企画「カラダで感じる生演奏(YCAM茶話会)」より)
●中也の兄弟たちのおもしろいエピソードもあり、楽しかったです。(60代女性「中也の兄弟たち」より)
●1つのモーションが文字を形成する1部になっているというの面白いと思いました。(20代女性「Op.∞」より)
●頭ではなく感じることで純粹になれた気がする。来て良かった。(20代女性「ミニマムインターフェース」展より)



財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation For Cultural Promotion

